

長久手市地域公共交通会議

平成20年11月25日設置

ファイダーシステム 平成26年6月NW計画策定

①協議会が目指す方向性(Plan)

1. 地域公共交通の確保維持について、協議会で設定されているエリアの地域特性

【概況】

- ・本市の人口は現在も増加傾向
- ・名古屋市の東側に位置し、通勤通学の流動量は名古屋市が最大

【市内の公共交通網】

軌道系のリニモと民間の路線バス：市内における東西方向の移動基軸

市営のコミュニティバス(Nーバス)：市内を面的にカバー

- ・公共交通の利用者数：近年は増加傾向

【交通課題】

- ・現在、市内では大規模な集客施設や住宅地の立地を予定する面整備が進行し、それらに対応した交通計画が必要

2. 第2次地域公共交通総合連携計画の目標及び期間

- ・平成21年10月に策定した地域公共交通総合連携計画を見直し、平成26年6月に第2次地域公共交通総合連携計画を策定
- ・公共交通の将来像と3つの目標の実現に向けて、路線体系の充実や利用意識の醸成を図り、移動の利便性や住みやすい環境確保の取組を展開

(1) 将来像：みんながつつながり笑顔があふれる公共交通

(2) 目標 ①「みんなが育む公共交通のまち」の実現

②「人にとやさしい公共交通のまち」の実現

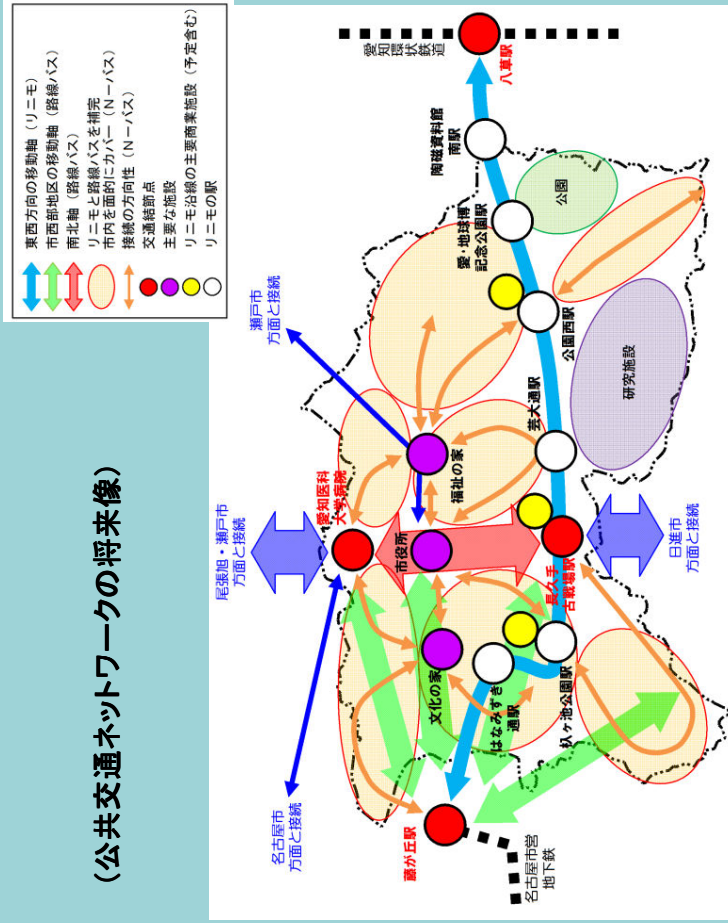
③「環境にやさしい公共交通のまち」の実現

(3) 計画期間：平成26年度～平成30年度の5年間

3. 地域公共交通に関する他計画や地域公共交通政策以外の関連施策との整合性

- ・第2次地域公共交通総合連携計画は、第5次長久手市総合計画、都市計画マスタープランなど、本市の総合的な指針を踏まえて計画
- ・リニモを基軸としたまちづくりを進める中で、公共交通ネットワークを構築し、交通結節点を整備

(公共交通ネットワークの将来像)



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

【平成25年度の取り組み】

- 主な実施事業
 - (1)バス路線の確保・維持
 - ・市民の移動の足として、Nーバスの運行を継続
 - (2)地域公共交通総合連携計画の見直し
 - ・公共交通に関するニーズを把握するため、市民4,000人を無作為に抽出して住民アンケート調査を実施
 - ・連携計画の取組、公共交通機関ごと、各種整備計画等との連携、高齢化に備えた対応など、視点を变えて課題を整理
 - ・上記の結果等を踏まえ、新たに将来像、目標、基本方針、計画事業等を整理して、「第2次地域公共交通総合連携計画(案)」の策定に着手
 - ・市民、行政、交通事業者の連携、まちづくりとの連携により、みんなで交通を育むことを目標設定
 - (3)利用環境改善促進等事業の実施
 - ・名鉄バス(株)が主体となって名鉄バスの名古屋営業所管内とNーバスにバスロケーションシステムの導入
 - ・平成26年3月1日から運用を開始
 - (4)市民との協働事業
 - ・長久手市の公共交通についての市民、利用者目線の広報資料として、「かわら版」を作成
 - ・平成24年度からの取り組みを継続
 - ・2名の市民協力者に作成の協力をいただき、第2号と第3号の合計2回発行

【平成26年度の取り組み】

- ・これまでの地域公共交通の維持確保の取り組みに加え、「みんなが育む公共交通」の実現に向けて、市民との協働事業を新たに実施
- 主な実施事業
 - (1)バス路線の確保・維持
 - ・市民の移動の足として、Nーバスの運行を継続
 - (2)地域公共交通総合連携計画策定
 - 「第2次地域公共交通総合連携計画(案)」のパブリックコメントの意見を踏まえて、「第2次地域公共交通総合連携計画」を策定
 - ・Nーバスは、新たな面整備や交通結節点整備などの都市構造の変化や新たな移動ニーズへの対応を図るため、路線見直しに向けた取り組みを開始
 - ・市民参加型の利用促進活動を実施事業に位置付けて、市民との協働事業の取組を強化
 - (3)市民との協働事業
 - ①周知・広報活動としての「かわら版」の作成
 - ・2名の市民協力者に作成の協力をいただき、第4号を発行(現在第5号を作成中)
 - ・市民主導への移行を目指し、原稿作成までを市民協力者が作成
 - ②Nーバスの路線再編における市民ワークショップの開催
 - ・第2次地域公共交通総合連携計画での「みんなが育む公共交通を育む」という方向性を踏まえて、市民とともに検討していくためのワークショップを開催
 - ③公共交通シンポジウムの開催
 - ・「みんなが公共交通を育む」という意識の醸成と、長久手市に必要とされる地域公共交通の姿をみんなで考えるための場として開催を予定

②地域公共交通に関する具体的な取り組み及びそのプロセス(Do)

かわら版作成の継続と市民主導への移行

【第3号】：平成25年度

表面



【第4号】：平成26年度

表面



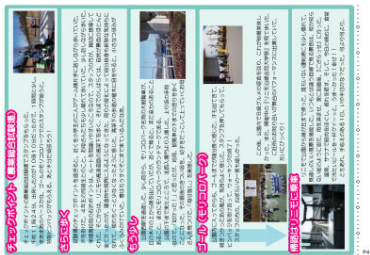
Nーバスに関するワークショップの開催

- ・本年度は4回の開催を予定
- ・参加市民を公募の結果、14名が参加を希望
- ・討議のテーマは以下のとおり
- 第1回：自身の、お互いの、長久手市の公共交通—今の印象
- 第2回：市の公共交通のよいところ・わるいところ
- 第3回：地域公共交通の将来と利用促進
- 第4回：今後のNーバスのあり方
- ・12月までに2回開催し、市民目線の様々な意見が出され、市民、事務局の双方で、市の公共交通に対する認識の共有が進展

公共交通に関するシンポジウムの開催

- ・平成27年2月8日(日)に開催を決定

裏面



裏面



みんなが買ひ公共交通交流会

見て 知って 語って ゲットして

長久手市の公共交通について みんなで考えよう!

平成27年 2月8日(日)
10:00~13:00 (開場9:30)
長久手市役所西庁舎 3階研修室

入場無料 申込不要

見る 公共交通の現状、課題、未来について、写真や動画、ポスター等を通して知る。

知る 公共交通に関する講演、長久手市役所西庁舎3階研修室で開催。

語る 公共交通に関する講演、長久手市役所西庁舎3階研修室で開催。

ゲット 公共交通に関する講演、長久手市役所西庁舎3階研修室で開催。

主催：長久手市地域公共交通会議
事務局：長久手市行政経営部経営管理課

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

【第1次の連携計画の目標達成度】

- ・公共交通利用者数は増加傾向で推移し、公共交通利用者数の目標は全ての市内公共交通機関で達成。「愛・地球博」以降で過去最高を記録
- ・名鉄バスについては、新路線の開設の影響もあり大幅に増加。
- ・公共交通の推進度は、前年度に続いて未達成
- ・「公共交通の推進度」は市民の意識に基づく指標であり、公共交通に対する市民への周知や意識向上のさらなる強化が必要と評価

目標	現状：H20実績	目標値	平成23年度実績	平成25年度実績	平成25年度評価
指標1 公共交通利用者数	リニモ	H20の10%アップ	約16,500人/日平均	約18,500人/日平均	達成 (20.0%アップ)
	名鉄バス	H20の10%アップ	2,240人/日	2,111人/日	達成 (80.0%アップ)
	Nーバス	H20の10%アップ	約450人/日平均	約530人/日平均	達成 (33.3%アップ)
	合計	H20の10%アップ	約19,190人/日平均	約21,141人/日平均	達成 (27.3%アップ)
指標2 公共交通の推進度	「進んでいない」との回答割合：28.1%	25%未満	29.5%	31.1%	未達成
指標3 公共交通転換者	—	調査段階ごとで増加	公共交通利用機会 増えた：13.9% 減った：14.4% 増えたー減った：-0.5%	公共交通利用機会 増えた：14.9% 減った：15.2% 増えたー減った：-0.3%	達成

【事業の評価】

- ・バス路線の確保・維持改善事業をした結果、バス利用者は増加
- ・新たに第2次地域公共交通総合連携計画を策定し、計画に基づき各種実施事業を展開
- ・周知・広報事業、市民参加型の取組に関しては、実施事業ごとに評価し、継続かつ内容改善が必要
- ・初の試みであるNーバスの市民ワークショップは、検討結果をNーバス事業にどう反映していくのかの展開方策の構築が必要
- ・公共交通シンポジウムは、参加した市民に地域公共交通の取組について知ってもらい、一緒に考え事業展開していただけるか、また一過性でなく継続的に本事業を実施できるかの工夫が必要

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

(1)公共交通の利用者増に満足することなく、市民協働事業に関する取組みの新規・継続実施

- ・継続的に実施をしていくことで、様々な機会で市民意識の醸成を推進
- ・事業実施ごとに評価、改善を図ることで、既存の取組の継続的なブラッシュアップ
- ・活動体制の組織化を目指し、市民ボランティア「地域公共交通応援隊(仮称)」を結成を計画し、平成27年度より、新体制での取組を予定

(2)かわら版作成に関する活動方針の拡大を計画

- ・これまでの個別募集の市民協力者による作成体制から、より一層の継続性の確保と利用促進に関する取組への拡大を検討
- ・市民ボランティア「地域公共交通応援隊(仮称)」の体制の中で作成を予定

(3)Nーバスの路線見直しを実施

- ・平成27年度中にNーバスの見直し予定
- ・ワークショップでの市民意見やNーバスの利用実態調査結果等を踏まえてNーバスの将来のあり方や路線再編を検討

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

新たな市民との協働事業の実施

(1)ワークショップの取組みの周知を予定

- ・このワークショップでは、今後5年、10年先を見据えたNーバスのあり方について市民と協働で考えることを主テーマとして実施
- ・併せて、ワークショップの取組みそのものを市民に広くPRするために、公共交通に関するシンポジウムの場において、取組みの発表を企画

(2)来場者参加型のプログラムでシンポジウムを開催

- ・本市で初めての取組みのため、シンポジウムの名称を「みんなで育む公共交通交流会」として、市民に分かりやすいように設定
- ・気軽に来場しやすいように、楽しみながら参加できるプログラムを企画
- ・具体的には、市の公共交通の「いいところ」「もつところなれば」と思うところなどを参加者全員がフリップに記載したものを掲示し、その中から選んだ内容について、参加者全員での意見交換の展開を企画
- ・次年度以降も継続的な開催を予定

【ワークショップの開催状況】



全体の様子



討議の様子



発表の様子